128.消化器外科領域における鏡視下手術の有用性の検討

研究の概要

消化器外科領域に限らず様々な領域で鏡視下手術が行われており、その症例数は年々増加傾向にあります。消化器領域では、食道癌手術、胃癌手術、大腸癌手術、胃・十二指腸潰瘍穿孔に対する大網充填術、人工肛門造設術、鼠径部ヘルニア修復術、腹壁瘢痕ヘルニア修復術、虫垂切断府、直腸脱に対する直腸固定術などが挙げられます。様々な術式において鏡視下手術の有用性（術後疼痛の軽減、入院期間の短縮)が報告されています。また安全性（術後合併症)に関しでも、一部の術式においては非鏡視下手術と遜色ないことが報告されています。当防外科で消化器外科領域の手術を行った症例において、臨床病理学的因子、短期成績および長期成績について後ろ向きに検討し、鏡視下手術の有用性および安全性を検討します。

研究の目的と方法

本研究では、2008年4月1日～2022年3月31日に国立病院機構熊本医療センター外科で、下記を含む消化器外科疾患に対して手術を受けた患者さまを対象としています。
良性・悪性を含む消化器腫瘍(食道癌、胃癌、小腸癌、大腸癌、肝臓癌、胆道癌、膵臓癌、GISTなど)、食道裂孔ヘルニア、胃・十二指腸潰瘍穿孔、人工肛門造設・閉鎖、鼠径部ヘルニア、腹壁瘢痕ヘルニア、虫垂炎、直腸脱など日常診療で得られたデータ(年齢、性別、検査内容、検査直、最終診断、治療状況、転帰など)を電子カルテから集計いたします。

本研究の参加について

これにより、患者さまに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究で扱う'情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。ご自身のデータを本研究に使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございます際は、末尾の問い合わせまでご連絡ください。

調査する内容

本研究は、新たに試料・情報を取得することはなく、既存カルテ情報のみを用いて実施する研究です。研究対象者(患者さま)の個人情報（氏名、住所、電話番号、カルテ番号など)は、記載せず、対応表を作成して管理しますので、個人情報は特定されません。

調査期間

研究期間:2008年4月1日～2024年3月31日(調査対象期間:2008年4月～2022年3月)

研究成果の発表

調査した患者さまのデータは、集団として分析し、学会や学術論文で発表いたします。また、個々の患者さまのデータを発表するときも、個人が特定されることはありません。

研究代表者

国立病院機構熊本医療センター　統括診療部長　宮成信友

当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター　統括診療部長　宮成信友

問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター　外科医師　小澄敬祐
TEL：096-353-6501